俳句

大津俳句会

雲なべて遠ざかりたる朴の花　井芹眞一郎

手に触れしほのかな湿り朝桜　秋山　恵子

師を偲び友を偲びて飛花落花　市原　初女

春旅や天草へ飛ぶいるか号　江藤　みち

のどけしや独り句をねりまどろみぬ　大塚喜久子

どの顔も未来明るき入学式　岡崎　浩子

朝の日に花のトンネル風しづか　坂本　セキ

急がずに流るる雲や山笑う　佐賀　久子

懐に青空入るる鯉のぼり　堀川　妙子

蛇穴を出て岩間より海を見る　松尾　昭雅

花万だどんどん道の狭くなる　武藤　規子

命尽くまでは旅人春惜しむ　渡邊佳代子

俳句

つのはな句会

十指みな開けば阿蘇に春が来る　星永　文夫

終活はしないタンポポの絮となる　田上　公代

さくら咲き十七文字につのる夢　木庭　杏子

春深む阿修羅の細き指の先　上杉　波

囀(さえず)りの溶けて深まる不信感　矢嶋　道子

行く春や太郎冠者踏む足拍子　水野　春子

彼岸桜みごとに咲いて平成尽　梅木トキエ

花馬酔木(はなあしび)ほのかにゆらゆら白い闇　塚本　洋子

チューリップ性善説の上に咲く　榮田しのぶ

春昼の虚を衝(つ)いてくる影　影影　志賀　孝子

短歌

大津短歌会

年々に友に出したき年賀状
今年余りて寒の見舞に　管野　静

廃屋の軒にからまるからす瓜
赤き実ひとつ静寂の庭　吉永　恵子

電線に体を丸く膨らませ
何の相談鳩の十五羽　豊岡ミツル

錆びつきし自転車でさえ回収の
花形となるさあ生きめやも　渡辺佐代子

晩秋の雨に散りしき銀杏の葉
ひっそりと建つ薬師堂にも　鞍　岳志

早朝に緑茶で体温めて
好きな読書で世界広がる　小平　善行

短歌

万年青短歌会

木蓮の花開きそめ悪戯の
ひよが来たりて花びら散らす　磯崎テル子

親しかる友よりもらいし万年青鉢を
わが子姉妹に分けて与えり　中山　春代

暖冬に育ちも早き阿蘇たか菜
友と語りつ浅漬となす　山内　信子

もらい来し桜の大枝部屋に活け
今年最初の花見の宴　合志　桃花

曾孫も生れるオリンピックもはやぶさ2も
老いふかむ身に支えとなりぬ　合志　妙子

過去ありて未来はなしときょうだいの
笑いはつづく昔話に　河北　幸一